

5.5 三番瀬の主要生物

ここでは、三番瀬の主要生物80種（底生生物25種、魚類13種、鳥類42種）について、簡単に紹介します。

底生生物

ウミゴマツボ	45	ミズヒキゴカイ	52
ホトトギスガイ	45	ツツオオフエリア	52
バカガイ	46	イトゴカイ科	
シオフキガイ	46	Capitella属の一種	53
シズクガイ	47	イトゴカイ科	
カガミガイ	47	Mediomastus属の一種	53
アサリ	48	コノハエビ	54
オオノガイ	48	ミツオビクーマ	54
アシナガゴカイ	49	ヒゲナガヨコエビ科	
クシカギゴカイ	49	ヒゲナガヨコエビ属の一種	55
カタマ加里ギボシイソメ	50	ニホンドロソコエビ	55
スピオ科		アリアケドロクダムシ	56
ヨツバナスピオA型	50	メリタヨコエビ科	
ドロオニスピオ	51	Melita属の一種	56
スピオ科		トゲワレカラ	57
Rhynchospio属の一種	51		

魚類

アカエイ	57	ギンポ	61
サッパ	58	ハタタテヌメリ	61
コノシロ	58	マハゼ	62
カタクチイワシ	59	イシガレイ	62
マゴチ	59	マコガレイ	63
スズキ	60	クサフグ	63
ボラ	60		

鳥 類

ハジロカイツブリ	64	アオサギ	74
カンムリカイツブリ	64	ダイサギ	75
カワウ	65	チュウサギ	75
ヒドリガモ	65	コサギ	76
オカヨシガモ	66	ミヤコドリ	76
コガモ	66	ダイゼン	77
マガモ	67	シロチドリ	77
カルガモ	67	メダイチドリ	78
オナガガモ	68	オグロシギ	78
ハシビロガモ	68	オオソリハシシギ	79
ホシハジロ	69	チュウシャクシギ	79
スズガモ	69	ダイシャクシギ	80
ホオジロガモ	70	ホウロクシギ	80
ウミアイサ	70	アオアシシギ	81
ウミネコ	71	ソリハシシギ	81
カモメ	71	キアシシギ	82
セグロカモメ	72	キョウジョシギ	82
ユリカモメ	72	オバシギ	83
ズグロカモメ	73	ミュビシギ	83
アジサシ	73	トウネン	84
コアジサシ	74	ハマシギ	84

参考文献

各主要生物の分布状況の文末の数字は、次の文献のうち、同じ数字の文献をもとに記載したものです。

1. 平成14年度三番瀬海生生物現況調査（魚類着底状況）報告書，千葉県・芙蓉海洋開発株式会社（2003）。
2. 平成14年度三番瀬海生生物現況調査（底生生物及び海域環境）報告書，千葉県・株式会社パスコ（2003）。
3. 平成15年度三番瀬自然環境総合解析「三番瀬の現状」報告書，千葉県・国土環境株式会社（2004）。
4. 今島 実（1996）環形動物 多毛類，生物研究者，186 p.
5. 市川二期・京葉港二期地区計画に係る補足調査結果報告書 現況編Ⅲ（海生生物），千葉県企業庁・千葉県土木部（1999）。
6. 市川二期・京葉港二期地区計画に係る補足調査結果報告書 現況編Ⅳ（鳥類），千葉県企業庁・千葉県土木部（1999）。

ウミゴマツボ *Stenothyra edogawensis*

【軟体動物門 マキガイ綱 ニナ目 ミズゴマツボ科】

一般的な特性

- 形状：殻高2mm。殻はこの科としては小型。
- 分布：松島湾、若狭湾以南、九州。
- 生息環境：内湾河口部の潮間帯の干潟泥上。
- 別名 エドガワミズゴマツボ。

【重要な種】 千葉県RDB：一般保護生物（D）



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、猫実川河口周辺である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：30～70%
 - 酸化還元電位（Eh）：0mV前後
 - 強熱減量：4%前後

ホトトギスガイ *Musculista senhousia*

【軟体動物門 二枚貝綱 イガイ目 イガイ科】

一般的な特性

- 形状：殻長2.2cm。薄質で扁平。殻皮は緑褐色。
- 分布：北海道南部～九州、東南アジア。
- 生息環境：内湾の潮間帯から水深10mまでの泥底。大発生をすることがある。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域西部である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：20%～30%
 - 酸化還元電位（Eh）：0～150mV
 - 強熱減量：2～4%

バカガイ *Mactra chinensis*

【軟体動物門 二枚貝綱 ハマグリ目 (マルスダレガイ目) バカガイ科】

一般的な特性

- 形状：殻長8.5cm。亜三角形。薄質。
- 分布：サハリン、オホーツク海から九州、中国大陸沿岸。
- 生息環境：潮間帯下部～水深20mの砂泥底。



三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、砂堆周辺から斜面上部である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：5%～10%
 - 酸化還元電位 (Eh)：100mV～350mV
 - 強熱減量：2%前後

シオフキガイ *Mactra veneriformis*

【軟体動物門 二枚貝綱 ハマグリ目 (マルスダレガイ目) バカガイ科】

一般的な特性

- 形状：殻長4.5cm。亜三角形。薄質、よく膨らむ。
- 分布：宮城県以南、四国、九州、沿海州南部～朝鮮半島、中国大陸沿岸。
- 生息環境：潮間帯下部～水深20mの細砂底。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、猫実川河口周辺を除く浅海域である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：0～10%もしくは40%前後
 - 酸化還元電位 (Eh)：0～300mV
 - 強熱減量：2%～4%前後

シズクガイ *Theora fragilis*

【軟体動物門 二枚貝綱 ハマグリ目 (マルスダレガイ目) アサジガイ科】

一般的な特性

- 形状：殻長1.5cm。殻は小型で長楕円形。薄質。
- 分布：北海道南西部以南、東南アジア。
- 生息環境：潮間帯から水深90mの泥底。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、猫実川河口周辺と浅海域斜面から沖合である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：50～80%
 - 酸化還元電位 (Eh)：0～50mV もしくは200～300mV
 - 強熱減量：2～6%

カガミガイ *Phacosoma japonicum*

【軟体動物門 二枚貝綱 ハマグリ目 (マルスダレガイ目) マルスダレガイ科】

一般的な特性

- 形状：殻長6.5cm。類円形、殻質やや薄く、膨らみは弱い。殻表は白色。
- 分布：北海道南西部から九州、朝鮮半島、中国大陸南岸。
- 生息環境：潮間帯下部から水深60mの細砂底。



三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域斜面から沖合である³。

アサリ *Ruditapes philippinarum*

【軟体動物門 二枚貝綱 ハマグリ目 (マルスダレガイ目) マルスダレガイ科】

一般的な特性

- 形状：殻長4cm。卵型、殻質やや薄く、膨らむ。
- 分布：サハリン、北海道から九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸。
- 生息環境：潮間帯中部から水深10mの砂礫泥底。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、猫実川河口周辺を除く浅海域である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：5%~10%
 - 酸化還元電位 (Eh)：100mV以上
 - 強熱減量：2%前後

オオノガイ *Mya arenaria oonogai*

【軟体動物門 二枚貝綱 オオノガイ目 オオノガイ科】

一般的な特性

- 形状：殻長9.5cm。殻は薄く、膨らみはやや弱い。内面は白色。
- 分布：北海道から九州、朝鮮半島、中国大陸北東岸。
- 生息環境：潮間帯の砂泥底。深く潜っている。



三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域西部から北部である³。

アシナガゴカイ *Neanthes succinea*

【環形動物門 多毛綱 サシバゴカイ目 ゴカイ科】

一般的な特性

- 形状：体長10～15cm。
- 分布：本州中部。
- 生息環境：内湾の砂泥底の潮間帯付近に生息。かなりの汚染域にも群棲する。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、市川側奥部から船橋海浜公園前面で、三番瀬の岸よりに広く分布する傾向を示している³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - 酸化還元電位 (Eh)：100mV 前後
 - 強熱減量：2～6%

クシカギゴカイ *Sigambra phuketensis*

【環形動物門 多毛綱 サシバゴカイ目 カギゴカイ科】

一般的な特性

- 形状：体長15mm。
- 分布：北海道～九州、朝鮮海峡。
- 生息環境：潮間帯～水深350m。ブーケット島では水深8～20m。
- 本種は、*S.tentaculata* (ハナオカカギゴカイ)によく似るが、腹足枝に櫛上剛毛を持つことで区別される。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

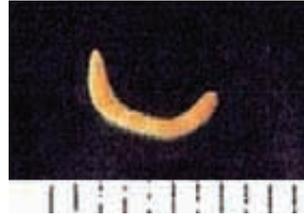
- 主な分布域は、浅海域の斜面周辺である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - 酸化還元電位 (Eh)：100mV 前後
 - 強熱減量：2～6%

カタマガリギボシイソメ *Scoletoma longifolia*

【環形動物門 多毛綱 イソメ目 ギボシイソメ科】

一般的な特性

- 形状：体長34mm。
- 分布：北海道～九州各地、朝鮮海峡。
- 生息環境：潮間帯～800m（黄海）。
- 以前は学名が *Lumbrineris longifolia* とされていたが、現在はこの学名は用いない⁴。三番瀬自然環境データベース上では旧学名のみで記録されている。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域の斜面である³。

ヨツバネスピオ A型 *Paraprionospio* sp. Type A

【環形動物門 多毛綱 スピオ目 スピオ科】

一般的な特性

- 形状：体長約4cm。
- 分布：本州以南。
- 生息環境：低潮線以深の砂底～泥底。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域の斜面から沖合である³。

ドロオニスピオ *Pseudopolydora kempii*

【環形動物門 多毛綱 スピオ目 スピオ科】

一般的な特性

- 形状：体長1～4cm。
- 分布：北海道～九州。北米西岸からインド、オーストラリア。
- 生息環境：内湾や干潟。砂浜から水深10mくらいの砂泥底。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域全域である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
シルト・粘土分：10%前後
強熱減量：2%前後

Rhynchospio属の一種 *Rhynchospio* sp.

【環形動物門 多毛綱 スピオ目 スピオ科】

一般的な特性

- スピオ目スピオ科の1種。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、猫実川河口周辺を除く浅海域である³。

ミズヒキゴカイ *Cirriformia tentaculata*

【環形動物門 多毛綱 ミズヒキゴカイ目 ミズヒキゴカイ科】

一般的な特性

- 形状：体長3～15mm。体はやや太くてずんぐりしている。眼はない。
- 分布：日本全国。
- 生息環境：砂泥性海岸の潮間帯に普通にみられ、かなりの汚染域にも群棲する。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域全域である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：20%～50%
 - 酸化還元電位 (Eh)：0mV 付近もしくは100mV 以上
 - 強熱減量：2～6%

ツツオオフエリア *Armandia lanceolata*

【環形動物門 多毛綱 オフェリアゴカイ目 オフェリアゴカイ科】

一般的な特性

- 形状：体長1cm。体は全身乳白色。
- 分布：本州中部以南。インド洋～西太平洋からアフリカ西岸まで広く分布。
- 生息環境：砂泥浜の潮間帯。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域全域である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - 酸化還元電位 (Eh)：100mV 前後
 - 強熱減量：2% 前後

Capitella属の一種 *Capitella* sp.

【環形動物門 多毛綱 イトゴカイ目 イトゴカイ科】

一般的な特性

- 生息環境：沿岸域にもっとも豊富だが、深海にも分布。砂泥中に潜り込み、粘液の薄い層で棲管を作る。
- 外見上はミミズによく似ている。
- 世界共通種の*Capitella capitata*（写真の種）は汚染指標動物として有名。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域西部から北部である³。

Mediomastus属の一種 *Mediomastus* sp.

【環形動物門 多毛綱 イトゴカイ目 イトゴカイ科】

一般的な特性

- イトゴカイ科 *Mediomastus* 属の一種。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、猫実川河口周辺である³。

コノハエビ *Nebalia japonensis*

【節足動物門 甲殻綱 コノハエビ目 コノハエビ科】

一般的な特性

- 形状：体長7～8mm程度。
- 分布：日本近海一円に分布すると予想される。
- 生息環境：浅海の汚泥中。水温や水質の変化に大きな抵抗力を示す。
(写真はコノハエビ科の一種)



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域（コノハエビ科）は、浅海域である³。

ミツオビクーマ *Diastylis tricincta*

【節足動物門 甲殻綱 クーマ目 クーマ科】

一般的な特性

- 形状：体長6mm。
- 分布：東京湾、相模湾、有明海など南日本の浅海。
- 夜間は海表層に泳ぎ出る。
(写真はクーマ科の一種)



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、猫実川河口周辺を除く浅海域である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：5%～10%
 - 酸化還元電位 (Eh)：100mV以上
 - 強熱減量：2%前後

ヒゲナガヨコエビ属の一種 *Ampithoe* sp.

【節足動物門 甲殻綱 ヨコエビ目 (端脚目) ヒゲナガヨコエビ科】

一般的な特性

- 主として海藻上に巣を作る。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域西部である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：10%前後
 - 酸化還元電位 (Eh)：100mV 前後
 - 強熱減量：3~8%

ニホンドロソコエビ *Grandidierella japonica*

【節足動物門 甲殻綱 ヨコエビ目 (端脚目) ユンボヨコエビ科】

一般的な特性

- 形状：体長13~22mm。
- 生息環境：内湾の泥や砂泥底。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、猫実川河口周辺 (浅海域西部) である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：40%前後
 - 酸化還元電位 (Eh)：0mV
 - 強熱減量：2~6%

アリアケドロクダムシ *Corophium acherusicum*

【節足動物門 甲殻綱 ヨコエビ目 (端脚目) ドロクダムシ科】

一般的な特性

- 形状：体長5mm
- 分布：全国の沿岸に普通にみられる。



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域西部である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：20～60%
 - 酸化還元電位 (Eh)：100mV 前後
 - 強熱減量：2% 前後

Melita 属の一種 *Melita* sp.

【節足動物門 甲殻綱 ヨコエビ目 (端脚目) メリタヨコエビ科】

一般的な特性

- メリタヨコエビ科は世界では69属が知られている大きな科で、我が国からは10属が知られている。*Melita* 属はその一つ。
- カギメリタヨコエビ、ナガタメリタヨコエビなど。



2004年4月 行徳 (倉西良一撮影)

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、猫実川河口周辺から市川市前面である³。

トゲワレカラ *Caprella scaura*

【節足動物門 甲殻綱 ヨコエビ目 (端脚目) ワレカラ科】

一般的な特性

- 形状：体長40mm。
- 分布：日本沿岸ほか、世界に広く分布。
- 生息環境：内湾域の海藻類のほか、定置網やロープなどの海洋構造物にも付着する。
(写真はワレカラ属の一種)



1目盛り：1mm

三番瀬における生息分布状況

- 主な分布域は、浅海域西部から北部である³。
- 以下の条件の区域に集中して出現する傾向がみられた²。
 - シルト・粘土分：5～60%
 - 酸化還元電位 (Eh)：-150～300mV
 - 強熱減量：2～5%前後

アカエイ *Dasyatis akajei*

【軟骨魚綱 エイ目 アカエイ科】

一般的な特性

- 分布：南日本沿岸、朝鮮半島、台湾、中国沿岸に分布。
- 生息環境：砂泥底。
- 繁殖：卵胎生。5～8月に内湾の浅い砂泥底で胎子を5～10個体出産する。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 三番瀬とその沖合域には、ほぼ周年にわたり体盤長200mm以下の小型個体が多く生息していた⁵。
- 三番瀬および沖合域では、体盤長100～200mmの個体が多く採集されていた。生後間もない100mm以下の小型個体は7、8月からみられ始めた⁵。
- 消化管内容物調査によると、6月以降に採集された体盤長90～140mmの幼魚では、ゴカイ科 (環形動物) やドロクダムシ属 (節足動物) など、4～12月に採集された体盤長80～140mmの個体ではゴカイ科 (環形動物)、*Caprella* sp. (節足動物) などを摂餌していた。また、4～12月に採集された体盤長110～580mmの個体では、オウギゴカイ (環形動物)、ラスバンマメガニ (節足動物) などを摂餌していた⁵。

サッパ *Sardinella zunasi*

【硬骨魚綱 ニシン目 ニシン科】

一般的な特性

- 分布：北海道以南、台湾、南シナ海北部。
- 生息環境：内湾や河口域。
- 繁殖：5～6月頃、岸辺の浅所で産卵する。
- 食性：プランクトン。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 三番瀬および沖合域では、60～125mmの個体が4～9月にわたって出現し、卵稚子は5～9月にかけて浅海域沖合を中心に全海域に出現していた⁵。
- 45mm以下の小型個体は8～9月に出現し、その出現位置は葛西人工海浜と幕張人工海浜に偏っていたが、60mm以上の個体は、出現時期全体を通じて三番瀬を含めた3海域ともに来遊していた。幼魚は夜になると三番瀬内にも出現していた⁵。
- 消化管内容物調査によると、稚魚期・幼魚期は*Oithona davisae*のコペポダイト期幼生など橈脚類（動物プランクトン）を多く摂餌していた。また、成魚はゴカイ科（環形動物）やドロクダムシ属（節足動物）などの底生動物も摂餌していた⁵。

コノシロ *Konosirus punctatus*

【硬骨魚綱 ニシン目 ニシン科】

一般的な特性

- 分布：新潟県・仙台湾以南、朝鮮半島、台湾、南シナ海北部。
- 繁殖：4～5月頃、河口域へ進入して日没後に産卵する。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 春季から夏季を中心に未成魚・成魚が三番瀬に来遊し、卵や仔稚魚も春季に多くみられたが、稚魚や幼魚はほとんど採集されなかった⁵。
- 140～250mmの個体が3～12月全体を通して確認された。体長組成の推移をみると、4月に150～160mm程度であった個体が、8月には180～190mm、その年の12月頃には210～220mm程度まで成長していることがうかがえた⁵。
- 消化管内容物調査によると、142～238mmの個体は、*Oithona* sp.などの橈脚類や浮遊幼生を主とする動物プランクトンのほか、幼生や稚貝を含む二枚貝綱やドロクダムシ属（節足動物）などの底生生物も摂餌していた⁵。

カタクチイワシ *Engraulis japonicus*

【硬骨魚綱 ニシン目 カタクチイワシ科】

一般的な特性

- 分布：北海道以南、朝鮮半島～南シナ海北部。
- 生息環境：沿岸から沖合の表層を群泳する。
- 食性：橈脚類などのプランクトン。
- 繁殖：孵化後1年未満で成熟し、産卵する。産卵期は周年にわたるが、春と秋に盛期となる。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 出現個体数は4～11月にかけて多く、12～3月にかけて少ない傾向がみられた⁵。
- 卵は4～5月および8～10月に出現し、沖合域で多い傾向がみられた⁵。
- 平成8～9年に実施した幼魚調査では、幼魚は4～12月の間に出現しており、特に5月と7月に出現個体数が多かった⁵。
- 消化管内容物調査によると、体長40～120mm程度の個体は、主に *Acartia omorii* や *Oithona davisae* などの動物プランクトンのほか、ドロクダムシ属（節足動物）なども摂餌していた⁵。

マゴチ *Platycephalus* sp.2

【硬骨魚綱 カサゴ目 コチ科】

一般的な特性

- 分布：南日本。
- 生息環境：内湾、河口付近などの水深30m以浅の砂泥底。
- 繁殖：5～7月に接岸して浅海の砂場で産卵する。
- 性転換をすることが知られており、全長40cm以上になると全て雌になるといわれている。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 三番瀬の浅場に広く分布していると推測される¹。
- 消化管内容物調査によると、着底稚魚期は、ヨコエビの仲間（端脚類）、アミ類、エビ・カニ類などの節足動物やゴカイ類（環形動物）を摂餌していた¹。

スズキ *Lateolabrax japonicus*

【硬骨魚綱 スズキ目 スズキ科】

一般的な特性

- 分布：北海道南部以南の日本沿岸、朝鮮半島南部。
- 繁殖：産卵期は冬。
- 食性：主に魚類や甲殻類。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 三番瀬一帯に広く分布している³。
- 幼魚の出現個体数のピークは5、6月で、葛西人工海浜や幕張人工海浜で多く出現していた⁵。
- 体長組成をみると、1～2月に体長20mm以下の小型個体、160～260mm程度の中型個体、280～360mm程度の大型個体が出現しており、これらの体長組成は経月的に大きい方へ移行していた⁵。
- 稚魚は浅海域で確認されていたが、7、8月には沖合域で100mm程度の幼魚が出現し始め、成長に伴う沖合域への分布の拡大が示唆された⁵。
- 消化管内容物調査によると、着底稚魚期は *Calanus* 目などの動物プランクトンや、ドロクダムシ属およびアミ類などの底生動物を摂餌していた³。成長すると、マハゼやカタクチイワシなどの小型魚類やゴカイ科（環形動物）の摂餌割合が高くなっていた⁵。

ボラ *Mugil cephalus cephalus*

【硬骨魚綱 スズキ目 ボラ科】

一般的な特性

- 分布：北海道以南、熱帯西アフリカ～モロッコ沿岸を除く全世界の温・熱帯域。
- 生息環境：沿岸浅所。幼魚は河川にも侵入する。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 岸沿いに分布している傾向がみられた¹。
- 三番瀬および沖合域では、50mm以下の小型個体が1～5月の間に出現していた。また、200～425mmの個体が3～12月の間に出現していた⁵。
- 消化管内容物調査によると、体長40mm以下の稚魚は、橈脚類などの動物プランクトンのみを摂餌していたが、体長約270～400mmの個体では、ドロクダムシ属（節足動物）やシオフキガイなどの底生動物を含む砂泥やデトリタスが多くなっており、成長の過程でプランクトン食性からデトリタス食性への変化がみられた⁵。

ギンポ *Pholis nebulosa*

【硬骨魚綱 カレイ目 カレイ科】

一般的な特性

- 分布：北海道南部～長崎県。
- 生息環境：潮間帯～水深70mの砂泥底や、岩礁域の藻場。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 12月～4月に稚仔魚が出現しており、出現場所は浅海域に偏っていた⁵。
- 体長組成の季節変化をみると、1～2月に40mm以下の小型個体、6月には60～120mmが出現していた。夏季には一度姿が見えなくなるが、秋以降100mm程度の個体が採集され、明瞭な季節性がみられた⁵。
- 消化管内容物調査によると、着底稚魚期は、動物プランクトンやアミ類、ワレカラ属（節足動物）などを摂餌していた¹。成長すると、体長に関係なく、*Caprella* sp.やドロクダムシ属など小型の節足動物が大部分を占めており、他に小型の多毛類なども摂餌していた⁵。

ハタタテヌメリ *Repomucenus valenciennei*

【硬骨魚綱 スズキ目 ネズッコ科】

一般的な特性

- 分布：石狩以南の各地沿岸、朝鮮半島南岸。
- 生息環境：水深40m前後の砂泥底。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 成魚は沖合域に多く分布する傾向がみられた¹。
- 主に浅海域で春季と秋季に50mm以下の個体が出現し、50mm以上の個体は沖合域のみで採集されていたことから、成長につれて、主な生息場が浅海域から沖合域に移行したことが考えられた⁵。
- 消化管内容物調査によると、体長20mm程度の個体は動物プランクトンや小型の多毛類（環形動物）、吸虫綱（扁形動物）などを摂餌し34、70mm以上の個体では、多毛類（環形動物）、ニホンドロソコエビ（節足動物）、チヨノハナガイなどの軟体動物を摂餌していた⁵。

マハゼ *Acanthogobius flavimanus*

【硬骨魚綱 スズキ目 ハゼ科】

一般的な特性

- 分布：北海道～種子島、オホーツク海～中国。
- 生息環境：内湾・河川の汽水域の砂泥底。淡水域にも進入する。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 仔稚魚は浅海域に多く、沖合には少ない傾向がみられた⁵。
- 浮遊期の仔稚魚は1～3月の間に特に多く出現する傾向がみられた。また着底稚魚は4～5月の間、幼魚は3～11月の間に出現する傾向がみられた⁵。
- 消化管内容物調査によると、体長20mm以下では *Acartia omorii* などの動物プランクトンを摂餌し、成長するにつれ、ドロクダムシ属やハルパクチクス目などの節足動物、ゴカイ科（環形動物）、二枚貝綱などの軟体動物など多くの底生動物を摂餌していた⁵。

イシガレイ *Kareius bicoloratus*

【硬骨魚綱 カレイ目 カレイ科】

一般的な特性

- 分布：日本各地、千島列島、樺太、朝鮮半島、黄海。
- 生息環境：沿岸浅所から水深100mまでの砂泥底。隣接した淡水域に進入することもある。
- 繁殖：産卵は12～7月。湾奥部の河口域沖合の水深40m以浅の場所で産卵する。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 三番瀬の浅場に広く分布している³。
- 三番瀬、葛西人工海浜および幕張人工海浜において採集された個体の体長組成をみると、当歳魚については、2月頃に20mm以下の小型個体が出現し、4月頃には30～70mmに達し、12月頃には120～200mmに成長するという推移がみられた⁵。
- 当歳魚は、5～6月頃に浅海域から沖合域へ分布を拡げていることがうかがえた⁵。
- 消化管内容物調査によると、体長15mm前後の個体では、*Calanus* 目などの動物プランクトンを摂餌していた。体長20mmを超えると食性が変化し、スピオ科やオフェリアゴカイ科（環形動物）、ヨコエビ亜目（節足動物）などの底生動物を摂餌していた。さらに体長を増すと、オウギゴカイ（環形動物）や、ドロクダムシ属、ラスバンマメガニといった節足動物、アサリ、チヨノハナガイなどの軟体動物など、摂餌内容が多様化した⁵。

マコガレイ *Pleuronectes yokohamae*

【硬骨魚綱 カレイ目 カレイ科】

一般的な特性

- 分布：北海道南部～大分県、黄海、渤海、東シナ海北部。
- 生息環境：水深100m以浅の砂底あるいは砂泥底。
- 繁殖：産卵期は12～4月。湾外あるいは湾口付近の水深10～60mの海底に産卵する。
- 食性：成魚は多毛類、甲殻類、二枚貝など。仔魚期は貝類幼生、カイアシ類など。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 三番瀬の浅場に広く分布しているおり、とくに浦安沖や船橋海浜公園前面海域で個体数が多く出現する傾向がみられた¹。
- 未成魚や成魚は、12～3月の冬季に沖合域で多くみられた⁵。
- 仔稚魚は12～3月の間に出現し、出現個体数のピークは12～1月だった。また、着底稚魚は2～6月に出現し、出現個体数のピークは3月であった⁵。
- 消化管内容物調査によると、体長10mm程度の個体は、*Centropages* sp.のコペポダイト期幼生などの動物プランクトンを摂餌していた。体長16～18mmの着底稚魚はディアスティリス科（甲殻綱）やハルパクス目（橈脚類）、多毛綱などの小型底生動物を摂餌していた。また、体長80mm以上になると二枚貝なども摂餌しており、沖合ではヨツバナスピオタイプAなど多毛類が主体となっていた⁵。

クサフグ *Takifugu niphobles*

【硬骨魚綱 フグ目 フグ科】

一般的な特性

- 分布：青森県～沖縄。
- 生息環境：水深50m以浅で、内湾の岩礁域、砂礫底、藻場など。
- 繁殖：初夏に内湾の岸辺に集団で押し寄せて産卵する。
- 砂に潜る習性がある。



三番瀬と周辺地域における分布状況と生態

- 体長組成をみると、100～170mmの個体が2月を除く各月に出現しており、これらの出現地点は塩浜前面域に集中していた⁵。
- 消化管内容物調査によると、体長23mmの個体では、*Ampithoe* sp.、*Caprella* sp.などの小型の節足動物を摂餌していた。体長100mm以上の個体は季節により食物組成が異なり、春季～夏季にかけては*Ampithoe* sp.やドロクダムシ属（節足動物）、*Glycera* sp.（環形動物）など、秋季～冬季にかけては軟体動物（頭楯目）などを摂餌していた⁵。

ハジロカイツブリ *Podiceps nigricollis*

【カイツブリ目 カイツブリ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。日本各地に渡来。
- 生息環境：海岸近くの湖沼、河口部、内湾。
- 食性：小型魚類、甲殻類、昆虫など。



1985年4月 谷津干潟（石川努撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

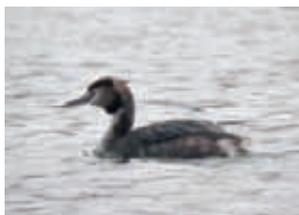
- 主に11月～翌年4月に観察され、確認個体数のピークは2月～3月であった³。
- 三番瀬では、最大230羽が観察されているが（補足調査1996年冬季）、通常は数羽～数十羽の規模で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、1992年頃から茜浜、日の出、千鳥等で増加傾向にあり、近年は茜浜、舞浜、幕張の浜等で個体数が増加している³。

カンムリカイツブリ *Podiceps cristatusalidris*

【カイツブリ目 カイツブリ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。ただし、青森県下北半島の小川原湖沼群や高槻市の淀川等での繁殖が確認されている。近年、渡来数が増加している。
- 生息環境：海岸や海岸近くの淡水湖沼や大きな川。
- 冬は内湾の海上など。
- 食性：魚類、甲殻類、昆虫、イモリやオタマジャクシなど。



2004年2月 行徳（石川一樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に11月～翌年4月に観察され、個体数のピークは1月であった³。
- 三番瀬における確認個体数は年によって大きく異なり、最大では約120羽（補足調査1996年冬季）が観察されているが、通常は数羽の規模が多い³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、1990年代前半から増加傾向にあり、舞浜、豊砂、茜浜、幕張の浜等で多くみられている。ただし、三番瀬では経年的に大きな個体数変化はみられていない³。
- 主に三番瀬で採餌し、日の出前面域、猫実川河口域で休息していた。また、葛西臨海公園周辺海域に分布が集中する傾向がみられた⁶。

カワウ *Phalacrocorax carbo*

【ペリカン目 ウ科】

一般的な特性

- 分布：留鳥。青森県では夏鳥として繁殖する。
- 生息環境：内陸の淡水、河川、湖沼。
- 食性：魚類や甲殻類。

【重要な種】 水産庁：普通
千葉県RDB：一般保護生物（D）



2003年2月 行徳（石川一樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

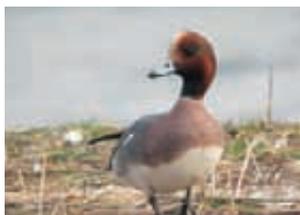
- 周年みられる。6月～10月に多く、1月～3月には少ない³。
- 三番瀬では最大約3,800羽が観察されているが（補足調査1996年冬季）、通常は数百羽であることが多い³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、1990年代前半から増加傾向にあり、茜浜、日の出、塩浜、行徳鳥獣保護区、船橋海浜公園、豊砂、幕張の浜で多くみられている³。
- 行徳鳥獣保護区、新浜鴨場周辺では1990年代後半から繁殖が確認されており、現在の営巣数は数百巣規模になっている³。

ヒドリガモ *Anas penelope*

【カモ目 カモ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。日本各地に渡来。
- 生息環境：緩流の河川、ダム湖、湖沼、海湾など。
- 食性：植物食。



2005年1月 行徳（石川一樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に10月～翌年4月に観察され、確認個体数のピークは11～12月であった³。
- 三番瀬ではおよそ260羽～340羽（補足調査1996年・1997年冬季）、最大で約550羽が確認された（補足調査1996年冬季）³。
- 三番瀬のほかでは、行徳鳥獣保護区、谷津干潟、新浜鴨場等で確認された³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、1990年代前半までは、行徳鳥獣保護区、新浜鴨場などで比較的多く確認されていたが、1990年代前半以降、個体数が減少している傾向がうかがえた。
- 三番瀬では大きな個体数変化はみられていない³。

オカヨシガモ *Anas strepera*

【カモ目 カモ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。本州、九州に渡来。北海道では北部や道東部で少数が繁殖する。
- 生息環境：湖沼、沼沢地、池、潟湖、水田、湿地など。
- 食性：雑食性。イネ科、タデ科などの種子、ヒルムシロなど水草の葉・茎・根なども食べる。

【重要な種】 千葉県RDB：要保護生物（C）



2003年1月 行徳（石川一樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

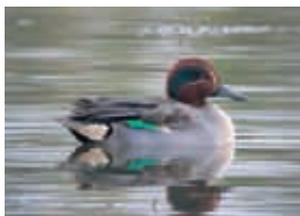
- 主に10月～翌年4月に観察されており、確認個体数のピークは主に2月であった³。
- 谷津干潟を中心に分布し、三番瀬では数羽（補足調査1996年冬季では最大6羽）が確認された。
- 三番瀬のほかに、茜浜、行徳鳥獣保護区でも確認された³。
- 経年的（1987年～2002年）には、個体数変動が激しいが、全体的に顕著な増減傾向はみられていない³。
- 谷津干潟のみを採餌場としていた⁶。
「オカヨシガモは水面採餌型であり、浅瀬の水面に浮かぶ植物の種子や水底の腐食質、水生昆虫、水草、植物の種子をついばんだり、漉しとったりして採餌する（中村ほか、1995）。このような環境は三番瀬には無いため、採餌環境が谷津干潟に限られているものと考えられる」（参考文献6一部引用）。

コガモ *Anas crecca*

【カモ目 カモ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。日本各地で越冬。
- 生息環境：河川、湖沼、ダム湖など淡水域の水系に多い。
- 食性：雑食性だが、草の種子・葉・茎などが主要食。



2003年11月 行徳（石川一樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に10月～翌年5月に観察されており、確認個体数のピークは主に2月であった³。
- 主に谷津干潟に分布し、三番瀬では数羽（補足調査1996年夏季では最大4羽）が確認された³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、谷津干潟や行徳鳥獣保護区では、1990年代前半以降個体数が減少しており、全体的にやや個体数が減少している傾向がうかがえた³。
- 谷津干潟のみを採餌場としていた⁶。
「コガモは水面採餌型であり、浅瀬の水面に浮かぶ植物の種子や水底の腐食質、水生昆虫、水草、植物の種子をついばんだり、漉しとったりして採餌する（中村ほか、1995）。このような環境は三番瀬には無いため、採餌環境が谷津干潟に限られているものと考えられる」（参考文献6一部引用）

マガモ *Anas platyrhynchos*

【カモ目 カモ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。日本各地に渡来し、越冬する。北海道・本州各地・対馬などに少数の繁殖記録がある。本州中部山岳地帯の上高地にはかなりの数が例年繁殖している。
- 生息環境：河川、湖沼、ダム湖、沿岸の海上など。
- 食性：雑食性だが、水草の葉・茎・種子などの植物食が主。



2005年11月 行徳（野長瀬雅樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に10月～翌年3月に確認され、確認個体数のピークは主に12～2月であった³。
- 船橋海浜公園、日の出・塩浜及び谷津干潟の3地域で均等に出現する傾向がみられたほか、行徳鳥獣保護区、江戸川放水路等でも確認されている³。
- 三番瀬では数羽（補足調査1996年冬季では最大8羽）が確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、1990年代後半以降、全体的に個体数が減少している傾向がうかがえる。近年は行徳鳥獣保護区での個体数が減少している。三番瀬では大きな個体数変化はみられていない³。
- 谷津干潟のみを採餌場としていた⁶。

「マガモは水面採餌型であり、浅瀬の水面に浮かぶ植物の種子や水底の腐食質、水生昆虫、水草、植物の種子をついばんだり、漉しとったりして採餌する（中村ほか、1995）。このような環境は三番瀬には無いため、採餌環境が谷津干潟に限られているものと考えられる」（参考文献6一部引用）。

カルガモ *Anas poecilorhyncha*

【カモ目 カモ科】

一般的な特性

- 分布：留鳥。ただし、北海道では夏鳥。
- 生息環境：河川、湖沼、水田、沼沢地、湿地、干拓地、干潟など。淡水域から海水域まで広くみられる。
- 食性：雑食性だが、草の葉・茎・種子などが主要食。



2004年4月 行徳（石川一樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 周年確認されており、三番瀬では数羽～最大16羽（補足調査1996年冬季）が確認された³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では大きな個体数変化はみられていないが、1990年代前半以降に行徳鳥獣保護区での確認個体数が減少している傾向がみられた³。

オナガガモ *Anas acuta*

【カモ目 カモ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。本州～九州で越冬。
- 生息環境：水量の多い河川、湖沼、潟湖、干潟、内湾、水田など。
- 食性：雑食性。水草の種子や破片、水生昆虫など。



2002年11月 行徳（石川一樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に10月～翌年3月に観察されており、確認個体数のピークは12月であった³。
- 三番瀬では約700～1,500羽が確認されており、最大は約2,300羽であった（補足調査1996年冬季）。
- 三番瀬のほかでは、谷津干潟、新浜鴨場で確認された³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では、1990年代に塩浜で比較的多く確認されたが、日の出と船橋海浜公園では、大きな個体数変化はみられていない³。

ハシビロガモ *Anas clypeata*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。本州以南に渡来。北海道では少数が繁殖。
- 生息環境：海岸の入江、内湾、河口、潟湖、干潟など。とくに海岸や沿岸の水系に多い。
- 食性：主にプランクトン食だが、軟体動物や昆虫、草の種子・果実なども食べる。



2003年11月 行徳（石川一樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 三番瀬においては、越冬個体もいるものの、10月～翌年3月に旅鳥として渡来していた。確認個体数のピークは主に11月と12月であった³。
- 谷津干潟、新浜鴨場、行徳鳥獣保護区を中心に分布していた³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、1993年頃を境に三番瀬周辺一帯で個体数が減少しており、1994年以降は新浜鴨場、行徳鳥獣保護区での個体数が特に減少している³。

ホシハジロ *Aythya ferina*

【カモ目 カモ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。本州、四国、九州に渡来。
- 生息環境：大きい河川、湖沼、ダム湖、潟湖など。比較的淡水域に多い。
- 食性：植物食。アマモ、エビモ、シャジクモなどの水草や、イネ科やタデ科などの種子も食べる。



谷津干潟（石川勉撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に10月～翌年3月に観察され、確認個体数のピークは11月と12月であった³。
- 三番瀬では、数羽～数十羽の規模で確認され、最大93羽確認されている（補足調査1996年冬季）³。
- 主に新浜鴨場、茜浜等で多く確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、個体数変動が激しいが、全体的に大きな変化はみられない³。

スズガモ *Aythya marila*

【カモ目 カモ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。日本各地に渡来。
- 生息環境：大きい湖沼、河川、内湾、干潟、河口部。
- 食性：雑食性だが、水底の巻貝類や二枚貝類の動物食が主要。

〔重要な種〕 千葉県RDB：一般保護生物（D）



三番瀬

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に10～3月に観察されている³。
- 確認個体数は、平均約63,000羽～69,000羽（補足調査1996年冬季）、平均約29,000羽（補足調査1997年冬季）、平均約22,000羽（平成14年度調査）、そして経年調査では平均約11,500～77,000羽（最大80,000羽）と、三番瀬で確認されているカモ類の中で最も多い種の一つであった³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、年変動が大きいものの、大きな個体数変化はみられていない³。

ホオジロガモ *Bucephala clangula*

【カモ目 カモ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。北海道、本州、四国、九州でみられ、本州北部と北海道に多い。
- 生息環境：大きい河川、湖沼、池、河口、砂浜海岸など。
- 食性：軟体動物、甲殻類、昆虫の幼虫、小魚、水草の種子・根・茎・葉なども食べる。

〔重要な種〕 千葉県RDB：重要保護生物（B）



2002年1月 三番瀬（坂元理撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に11月～翌年3月に観察され、確認個体数のピークは主に1月であった³。
- 三番瀬における確認個体数は年によって大きく異なり、20羽～200羽以上と幅広い（補足調査1996年・1997年冬季）。最大では約400羽が観察されている（補足調査1996年冬季）³。
- 三番瀬のほかでは、舞浜等で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、個体数変動が大きいのが、全体的にやや増加している傾向がうかがえた。三番瀬では、年変動はあるが、顕著な個体数の増減傾向はみられていない³。

ウミアイサ *Mergus serrator*

【カモ目 カモ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。日本各地に渡来。
- 生息環境：沿岸の比較的浅い岩礁域や河口部の干潟の水路、潟湖など。
- 食性：主として魚食。

〔重要な種〕 千葉県RDB：一般保護生物（D）



2005年1月 谷津干潟（石川勉撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に11月～翌年3月に観察されており、確認個体数のピークは主に2月であった³。
- 三番瀬を中心に分布し、数羽（補足調査1996年冬季には最大18羽）が確認された³。
- 三番瀬のほかでは、江戸川放水路河口部等で確認された³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では大きな個体数変化はみられていない³。
- 三番瀬のみで採餌していた⁶。

ウミネコ *Larus crassirostris*

【チドリ目 カモメ科】

一般的な特性

- 分布：留鳥もしくは夏鳥。北海道、本州、九州の沿岸各地で繁殖し、冬はほぼ日本全土の海域に広がる。
- 生息環境：岩礁、漁港、河口部の中州、砂浜など。沿岸の無人島、岩礁などで繁殖。
- 食性：小型魚、甲殻類、動物の死体など。



2003年11月 行徳（石川一樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に8月～9月に多く観察されている³。
- 平成8-9年の補足調査時には、三番瀬では約1,300羽～5,800羽（1996年・1997年夏季）、最大約7,800羽（1997年夏季）が確認されている³。
- 三番瀬のほかでは、舞浜、豊砂等で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、1990年代後半にかけて個体数が増加している傾向がうかがえる³。

カモメ *Larus canus*

【チドリ目 カモメ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。10月から翌年の5月頃までに日本海周辺など各地に渡来。
- 生息環境：海岸、港湾、河口など。
- 食性：雑食性。ミミズ、魚、軟体動物、昆虫、カエル、甲殻類、穀物、ベリーなど。



2005年1月 行徳（佐藤達夫撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に9月～翌年5月に確認され、確認個体数のピークは3月であった³。
- 三番瀬では数羽から数十羽の規模で確認されている（補足調査1996年・1997年冬季）³。
- 三番瀬のほかでは、舞浜等でみられている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、1990年代前半に船橋海浜公園で多く確認されたが、全体的には大きな個体数変化はみられていない³。

セグロカモメ *Larus argentatus*

【チドリ目 カモメ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。9月から翌年の5月頃に日本全土の海岸に渡来。
- 生息環境：海岸、陸から離れた洋上など。



2003年11月 行徳（佐藤達夫撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に10月～翌年4月に観察される³。
- 三番瀬では、約100羽～700羽（補足調査1996年・1997年冬季）、最大で約1,200羽が観察されている（1996年冬季）³。
- 三番瀬のほかでは、船橋海浜公園、塩浜、行徳鳥獣保護区等で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では大きな個体数変化はみられていない³。

ユリカモメ *Larus ridibundus*

【チドリ目 カモメ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。日本各地に渡来。
- 生息環境：海岸の漁港、河口、干潟、潟湖、内陸の湖沼、大きい河川など。
- 食性：昆虫、無脊椎動物、死肉、果実など。



2003年11月 行徳（石川一樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に10月～翌年5月に観察されている³。
- 三番瀬では数百羽の規模で確認されることが多く、最大約500羽が確認されている（補足調査1996年冬季）³。
- 三番瀬のほかに、主に谷津干潟、舞浜、船橋海浜公園で多く確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では大きな個体数変化はみられていない³。

ズグロカモメ *Larus saundersi*

【チドリ目 カモメ科】

一般的な特性

- 分布：冬鳥。北海道から沖縄県までの沿岸各地に冬鳥として少数が飛来する。迷鳥とされることもある。
 - 生息環境：内湾や入り江の干潟の水辺。
- [重要な種] 環境省RDB：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
水産庁：絶滅危惧種
千葉県RDB：最重要保護生物 (A)



2005年11月 行徳 (山口誠撮影)

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に12月～翌年5月までに観察されているが、個体数は少ない³。
- 主に谷津干潟に分布し、三番瀬では数羽確認されている程度である（補足調査1996年・1997年冬季³）。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では大きな個体数変化はみられていない³。

アジサシ *Sterna hirundo*

【チドリ目 カモメ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。日本各地に渡来する。
 - 生息環境：海岸の河口、潟湖、大きい湖沼、大きい河川など。
 - 食性：魚や甲殻類。
- [重要な種] 千葉県RDB：要保護生物 (C)



2004年8月 行徳 (山口誠撮影)

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4月～5月、8月～10月に観察されている³。
- 三番瀬では、通常約110羽～2,200羽、最大約5,000羽観察されている（補足調査1996年・1997年冬季³）。
- 三番瀬のほかに、船橋海浜公園、茜浜、日の出で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、個体数変動は大きい³が、1990年代前半以降、確認個体数は全体的にやや増加傾向にある³。ただし、三番瀬では顕著な個体数増減の傾向はみられていない³。

コアジサシ *Sterna albifrons*

【チドリ目 カモメ科】

一般的な特性

- 分布：夏鳥。本州以南の各地で繁殖しているが、繁殖地は限られている。
- 生息環境：湖沼、河川、河口など大きい水系のある河原、砂州、砂浜、海岸の干潟、洋上など。
- 食性：魚類。

〔重要な種〕 種の保存法：国際希少野生動植物種
環境省RDB：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
水産庁：減少傾向
千葉県RDB：最重要保護生物（A）



2005年6月 浦安千鳥（佐藤達夫撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4月～9月に観察されている³。
- 三番瀬では8月頃に約340羽～110羽確認され、最大では1,900羽が確認されている（補足調査1996年・1997年夏季）³。
- 三番瀬のほかでは、舞浜、幕張の浜で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、1990年代前半以降、確認個体数は全体的にやや増加傾向にある³。

アオサギ *Ardea cinerea*

【コウノトリ目 サギ科】

一般的な特性

- 分布：本州、四国では留鳥あるいは漂鳥、北海道では夏鳥、九州以南では冬鳥。北海道、本州、四国、対馬で繁殖する。関東平野にはコロニーは少ない。
- 生息環境：湖沼、河川、水田、干潟など。
- 食性：昆虫、両生類、甲殻類、ネズミなどの小哺乳類。

〔重要な種〕 千葉県RDB：一般保護生物（D）



2004年8月 行徳（山口誠撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に8月～10月に多く確認されている³。
- 三番瀬では数羽（1996年夏季に最大6羽）観察されている³。
- 三番瀬のほかに、行徳鳥獣保護区、谷津干潟、茜浜等で多く観察されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では大きな個体数変化はみられていない³。

ダイサギ *Egretta alba*

【コウノトリ目 サギ科】

一般的な特性

- 分布：夏鳥。関東地方から九州までの各地で繁殖。
- 生息環境：見通しの良い川、湖沼、干潟など。
- 食性：両生類、甲殻類、ネズミなど小哺乳類。

〔重要な種〕 千葉県RDB：要保護生物（C）



2004年5月 行徳（山口誠撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に8月に多く観察されている³。
- 三番瀬では数羽（補足調査では1996年夏季に最大46羽）確認されている³。
- 三番瀬のほかでは、主に谷津干潟、行徳鳥獣保護区、茜浜、船橋海浜公園等で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）には、三番瀬では大きな個体数変化はみられていない³。

チュウサギ *Egretta intermedia*

【コウノトリ目 サギ科】

一般的な特性

- 分布：夏鳥。フィリピン方面から渡来し、本州から九州までの各地で繁殖。
- 生息環境：平地の水田、湿地。海岸や山地の水辺には少ない。
- 食性：昆虫、クモ類、ドジョウやフナなどの魚類、カエルなど。

〔重要な種〕 環境省RDB：準絶滅危惧（NT）

水産庁：希少種

千葉県RDB：重要保護生物（B）



2005年5月 一宮（山口誠撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 8月に多く観察されている³。
- 主に谷津干潟、行徳鳥獣保護区、新浜鴨場に多く分布し、三番瀬では冬季・夏季ともに確認されていない³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では大きな個体数変化はみられていない³。
- 採餌環境の中心は周辺に湿性植物を有するような環境であり、日中の主な分布場所である谷津干潟や新浜鴨場で採餌していると考えられる⁶。

コサギ *Egretta garzetta*

【コウノトリ目 サギ科】

一般的な特性

- 分布：夏鳥または漂鳥。本州から九州までの各地で数多く繁殖。
- 生息環境：低地や山地の水田、湖沼、河川、海岸の干潟。
- 食性：魚類、カエルなど。

[重要な種] 千葉県RDB：要保護生物 (C)



2004年9月 行徳 (佐藤達夫撮影)

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に8月に多く観察されている³。
- 三番瀬のほかでは、谷津干潟、新浜鴨場等で多く確認されている³。
- 三番瀬では数羽 (補足調査時1996年夏季に最大10羽) 確認されている³。
- 経年的 (1987年～2002年) にみると、1990年前後をピークに、全体的に個体数が減少している傾向がうかがえる³。

ミヤコドリ *Haematopus ostralegus*

【チドリ目 ミヤコドリ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥または冬鳥。日本全国の海岸にまれに渡来。ただし、千葉県、神奈川県、福岡県などには毎年群れが現れ、越冬している場所がある。
- 生息環境：潮間帯の砂浜、砂利浜、岩礁地など。海岸からあまり離れない。
- 食性：二枚貝、カニ、ゴカイ類など。

[重要な種] 千葉県RDB：最重要保護生物 (A)



2001年1月 銚子 (坂元理撮影)

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に10月～翌年4月に確認されている³。
- 平成8～9年の補足調査時では最大で15羽、平成14年度調査では最大77羽が確認されており、個体数の増加傾向がみられた³。
- 三番瀬のほかでは、舞浜、豊砂等で確認されている³。
- 経年的 (1987年～2002年) にみると、三番瀬では船橋海浜公園で個体数が増加しており、近年増加傾向にあることがうかがえる³。

ダイゼン *Pluvialis squatarola*

【チドリ目 チドリ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春は3～5月、秋は8～10月に日本各地に渡来する。
- 生息環境：干潟、河口の三角州、砂浜などの砂泥地。
- 食性：昆虫、甲殻類、貝類、ミミズ、ゴカイ、植物の種子など。

〔重要な種〕 千葉県RDB：要保護生物（C）



三番瀬

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に8月～翌年5月に観察されている³。
- 三番瀬では最大約200羽が観察されているが（補足調査1996年夏季・1997年冬季）、通常は数羽～数十羽の規模が多い³。
- 三番瀬のほかでは、谷津干潟に多く見られている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では大きな個体数変化はみられないものの、谷津干潟では個体数が減少している³。

シロチドリ *Charadrius alexandrinus*

【チドリ目 チドリ科】

一般的な特性

- 分布：夏鳥。本州以南に渡来。
- 生息環境：海岸の砂浜、河口の干潟、大きい河川の広々とした砂州などで繁殖する。
- 食性：昆虫、クモ類、甲殻類、ミミズ、ゴカイ類、小型の貝類。

〔重要な種〕 千葉県RDB：最重要保護生物（A）



三番瀬

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 周年観察され、確認個体数のピークは8月～9月であった³。
- 三番瀬では最大300羽が確認されているが（補足調査1996年冬季）、通常は数十羽の規模が多い³。
- 三番瀬のほかでは、谷津干潟、江戸川放水路等で多く確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では大きな個体数変化はみられていないものの、谷津干潟では個体数が減少している³。

メダイチドリ *Charadrius mongolus*

【チドリ目 チドリ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春は4～5月、秋は8～11月に海岸地方に渡来。
- 生息環境：海岸の砂浜、干潟、内陸の河川など。

[重要な種] 千葉県RDB：要保護生物 (C)



三番瀬

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4月～5月、7月～10月に観察されている³。
- 三番瀬では最大約160羽が観察されているが（補足調査1997年夏季）、数十羽の規模が多い³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では大きな個体数変化はみられていないが、谷津干潟では個体数が減少している³。

オグロシギ *Limosa limosa*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春は4～5月、秋は8～10月に日本各地に渡来。
- 生息環境：干潟、海岸の河口部、湖沼や河川の砂泥地、水田、ため池。
- 食性：昆虫、甲殻類、二枚貝、ミミズ、ゴカイなど。

[重要な種] 千葉県RDB：要保護生物 (C)



2005年9月 行徳（山口誠撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4月～5月、8月～10月に観察されている³。
- 三番瀬では数羽（補足調査1996年夏季は最大2羽）が観察されている³。
- 船橋海浜公園と谷津干潟を中心に分布する傾向がみられた³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では偶発的に100羽の規模で確認されるなど個体数変動が激しいが、それを除くと全体的に顕著な増減傾向はみられていない³。

オオソリハシシギ *Limosa lapponica*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春は4～6月、秋は8～9月に日本全国に渡来。
- 生息環境：海岸の砂泥地、水たまりや干潟、水田、河川、湖沼の砂泥地。
- 食性：甲殻類、軟体動物、昆虫、小魚など。

【重要な種】 千葉県RDB：要保護生物（C）



谷津干潟（石川勉撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4月～5月、7月～10月に観察されている³。
- 三番瀬では最大約20羽が観察されたが（補足調査・平成14年度調査の夏季）、多くは数羽の規模で確認された³。
- 三番瀬のほかでは、谷津干潟で多く確認されている³。
- 船橋海浜公園では1990年代に比較的多く確認されていた³。

チュウシャクシギ *Numenius phaeopus*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春は4～5月、秋は9～10月に日本各地に渡来。
- 生息環境：海岸の干潟、砂浜の水溜まり、河川の砂泥地、水田など。
- 食性：カニ、カエル、水生昆虫の幼虫やベリーなど。

【重要な種】 千葉県RDB：一般保護生物（D）



三番瀬

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4月～6月、7月～10月に観察されている³。
- 三番瀬では数羽（補足調査夏季には最大で9羽）が確認されている³。
- 三番瀬のほかでは、谷津干潟、舞浜等で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、塩浜地区で個体数が増加している傾向がみられる³。

ダイシャクシギ *Numenius arquatas*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春は4～5月、秋は8～10月に日本各地に渡来する。日本海沿岸には少ない。
- 生息環境：海岸砂浜、入り江の干潟など。
- 食性：昆虫、ゴカイ類、二枚貝、カニ類など。

〔重要な種〕 千葉県RDB：最重要保護生物（A）



1999年9月 谷津干潟（坂元理撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に7月～翌年5月に観察され、個体数のピークは12月～翌年2月であった³。
- 谷津干潟を中心に分布する傾向がみられ、三番瀬では数羽（補足調査冬季には最大で15羽）が確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、谷津干潟では個体数が増加傾向を示しているが、その個体数は数羽程度である。三番瀬では個体数変化は特にみられていない³。
- 冬季は谷津干潟で主に採餌し、谷津干潟と船橋海浜公園の両地域で休息する傾向がみられた⁶。

ハウロクシギ *Numenius madagascariensis*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春3～6月、秋8～10月に日本各地に渡来。本州中部以南では少数が越冬する。
- 生息環境：入江の干潟、海岸の砂浜、河口の砂泥地など。
- 食性：ゴカイやカニ類。

〔重要な種〕 環境省RDB：絶滅危惧Ⅱ類（VU）
千葉県RDB：最重要保護生物（A）



1995年8月 谷津干潟（石川勉撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4月～5月、8月～10月に観察されている³。
- 谷津干潟を中心に分布する傾向があり、谷津干潟で数羽（補足調査1997年夏季に最大4羽）が観察されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、三番瀬では、偶発的に20羽程度の規模で確認されることがあるが、全体的には大きな個体数変化はみられていない。谷津干潟では、個体数が減少している傾向がうかがえる³。

アオアシシギ *Tringa nebularia*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春は4～5月、秋は8～10月に日本各地に渡来。沖縄では少数が越冬する。
- 生息環境：河川、河口、干潟、海岸の水溜まり、潟湖、池沼、水田などの砂泥地。
- 食性：水生昆虫、甲殻類、ミミズ、カエル類や小魚。

【重要な種】 千葉県RDB：一般保護生物（D）



2003年4月 行徳（石川一樹撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 谷津干潟を中心に分布する傾向がみられ、1997年夏季（補足調査）には約30羽が確認された³。
- 三番瀬では同時期に2羽が確認されている³。
- 行徳鳥獣保護区等でも確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、1990年代以降は行徳鳥獣保護区での確認個体数が減少しており、全体的に個体数が減少している傾向がうかがえた³。

ソリハシシギ *Xenus cinereus*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春は4～5月、秋は8～10月に、日本各地に渡来。
- 生息環境：海岸地方の干潟、水路、ため池などの砂泥地。
- 食性：双翅類の成虫・幼虫、小型の甲殻類など。

【重要な種】 千葉県RDB：要保護生物（C）



1999年9月 谷津干潟（坂元理撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4月～6月、7月～10月に観察されている³。
- 谷津干潟や行徳鳥獣保護区域を中心に分布する傾向がみられ、採餌場、休息場ともに谷津干潟に依存する度合いが高かった³。
- 三番瀬では数羽（平成14年度調査夏季に最大で5羽）が確認された³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、行徳鳥獣保護区では個体数が減少している傾向がうかがえるが、三番瀬では大きな個体数変化はみられていない³。

キアシシギ *Heteroscelus brevipes*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春は5～6月、秋は8～10月に日本各地に渡来。
- 生息環境：海岸の砂浜、波打ち際、干潟、河川の砂泥地や砂礫地など。
- 食性：昆虫や双翅類。

【重要な種】 千葉県RDB：要保護生物（C）



三番瀬

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4～5月、7～10月に観察されている³。
- 三番瀬では、最大約70羽が確認されており（補足調査1996年・平成14年度調査夏季）、数十羽の規模で確認されることが多い³。
- 三番瀬のほかでは、谷津干潟、江戸川放水路で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、谷津干潟では個体数が減少している傾向がみられるが、三番瀬では大きな個体数変化はみられていない³。

キョウジョシギ *Arenaria interpres*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。日本各地に渡来。
- 生息環境：海岸の砂浜や河口の砂泥地のほか、
- 岩石地や砂利地の海岸など。
- 食性：甲殻類、貝類、ハマトビムシなど。

【重要な種】 千葉県RDB：要保護生物（C）



三番瀬

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4月～5月、7月～9月に観察されている³。
- 三番瀬では、8月頃には数十～百数十羽の規模で分布し（補足調査・平成14年度調査）、最大約170羽（補足調査1996年夏季）が確認されている³。
- 三番瀬のほかでは、谷津干潟、茜浜等で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、個体数変動が大きいのが、全体的に顕著な個体数の増減はみられていない³。

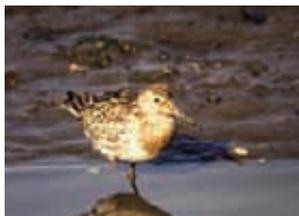
オバシギ *Calidris tenuirostris*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春は4～5月、秋は比較的早く7～9月に日本各地に渡来。
- 生息環境：海岸の砂浜や干潟、海岸に近い沢沼地など。
- 食性：双翅類や鞘翅類など昆虫（幼虫・成虫）、クモ類、ベリー、種子など。

〔重要な種〕 千葉県RDB：要保護生物（C）



1995年10月 行徳（山口誠撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4月～5月、7月～9月に観察されている³。
- 三番瀬では数羽（補足調査1996年夏季は最大で13羽）が確認されている³。
- 船橋海浜公園と谷津干潟を中心に分布する傾向がみられている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、年による変動が大きく明確ではないが、谷津干潟で減少し、船橋海浜公園で増加している可能性がある³。

ミュビシギ *Crocethia alba*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥または冬鳥。春は5月、秋は8～10月に日本各地に渡来する。本州以南では少数が越冬する。
- 生息環境：海岸の砂浜の波打ち際、広い砂浜、干潟、干拓地の水溜まりなど。
- 食性：アブ、カ、ガガンボなどの昆虫の幼虫、成虫、コケ類や海藻の芽など

〔重要な種〕 千葉県RDB：一般保護生物（D）



三番瀬

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に8月～翌年5月に観察されている³。
- 平成8-9年の補足調査時には、確認個体数が最大で夏季76羽、冬季75羽確認され、平成14年度調査ではそれぞれ101羽、157羽確認されたことから、個体数の増加傾向がみられた³。
- 三番瀬のほかでは、豊砂、幕張等で多く確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、特に船橋海浜公園では個体数が増加している傾向がみられ、全体的に個体数は増加傾向にみられた³。

トウネン *Calidris ruficollis*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。日本各地に渡来。
- 生息環境：海岸の砂浜の波打ち際や水溜まり、内湾や河口部の潮間帯の干潟砂泥地など。
- 食性：ミミズ、ゴカイ類、甲殻類、昆虫など。

【重要な種】 千葉県RDB：要保護生物（C）



2004年9月 行徳（山口誠撮影）

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に4月～5月、7月～10月に観察されている³。
- 三番瀬では通常十羽～数十羽、最大で137羽観察されている（補足調査1996年夏季）³。
- 三番瀬のほかでは、谷津干潟、豊砂等で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、年変動が大きいものの、大きな個体数変化はみられていない。三番瀬では、1990年代前半に船橋海浜公園で比較的多く確認されていた³。

ハマシギ *Calidris alpina*

【チドリ目 シギ科】

一般的な特性

- 分布：旅鳥。春は4～5月頃、秋は8～10月頃に日本各地に渡来。
- 生息環境：海岸の砂浜、干潟、水溜まり、潟湖、大きい河川の砂泥地など。
- 食性：水生昆虫の幼虫、ミミズ、ゴカイ、ヨコエビなど。

【重要な種】 千葉県RDB：重要保護生物（B）



三番瀬

三番瀬と周辺地域における生息分布状況

- 主に9月～翌年5月に観察されている³。
- 三番瀬では千～二数千百羽の規模で確認されており、最大で約3,500羽確認されている（補足調査1997年冬季）³。
- 三番瀬のほかでは、谷津干潟、舞浜等で確認されている³。
- 経年的（1987年～2002年）にみると、年変動が大きいものの、大きな個体数変化はみられていない³。

三番瀬の自然を調べよう
三番瀬自然環境モニタリング・マニュアル

発行年月 平成18年3月

編集発行 千葉県環境生活部環境政策課

〒260-8667

千葉県千葉市中央区市場町1番1号

電話 043-223-4135